

連盟理事会より米国大統領「R・レーガン氏」あての「緊急要請文」全文

我々は、貴下がこの度の来日に際し、靖国神社への訪問を控えることを、ここに緊急に要請するものである。

日本の戦没者を祀る靖国神社は、貴国における特定の宗教的立場をとらない無名戦士の墓とは異なり、神道の神を礼拝する正式の社である。丘土が出兵するに際し、天皇に忠誠を、警うことを課せられたのは、この神社においてであった。しかも、戦場で死に赴いた人々の魂が、彼ら自身の、またその遺族の宗教的立場の如何を問わず、強制的に祀られたのもここにおいてであった。

この靖国神社を国家の公式の戦没者慰霊の社としようとする試みは、これまで日本の国会に於いてくり返し打ち砕かれてきた。そして、その国営化は、政教分離の原則を維持せんとし、信教の自由を信じるキリスト者をはじめ、多くの人々によって反対を受けているものである。

こうした神社への貴下の訪問は、合衆国大統領による神道の神を礼拝する行為として、日本国民に誤解されることであろう。靖国神社は、1978年、東條英機を含む七名の戦争首謀者を紳として祀るに至った。いかなる宗教的、倫理的、論理の見地からみても、合衆国大統領がそうした礼拝行為を行うということは、自己矛盾であるといえよう。

更に、貴下の靖国神社参拝は、合衆国政府による我が国再軍備化への圧力を意味するものととらえられよう。これは、貴国による我が国軍国主義化への公式の要請であり、内政干渉に等しいものと理解されることであろう。

エリザベス女王は、こうした背景を知り、1975年4月、その靖国神社訪問を取り止めることとしたのである。一連の貴国大統領もこうした訪問を避けてこられたが、それはまことに賢明なことであったと言えよう。我々は、貴下ご自身もまた、この件に関し責任ある対応をされるものと信じるものである。

この故に、我々は、貴下が、靖国神社訪問によって引き起こされるであろう宗教的な、また政治的な好ましからざる結果についてご深慮下さり、日本政府閣僚によるいかなる招待にも応じられぬよう、ここに緊急に要請するものである。

本決議文は1983年8月24日、日本バプテスト連盟理事会において、採択されたものである。

敬具

日本バプテスト連盟 理事長 松村秀一

日本バプテスト連盟 常務理事 金子純雄